

第2回: ポストケインズ派経済学とは何か —主流派経済学と非主流派経済学(第1回の続き)

担当者: 佐々木 啓明*

2010年4月20日

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

—ポストケインズ派経済学の本質的特徴—

1. 有効需要原理

2. 動学的歴史的時間

有効需要原理

産出や雇用は需用によって決定される。初期賦存量や供給によって制約されない。

→ 投資が貯蓄を決定する(セー法則を否定)。

† 短期でも長期でも有効需要原理が働く。

動学的歴史的時間

時間は不可逆的。移行過程が重要。長期状態は短期状態に依存する。

→ ただし、ラヴォアは言い過ぎ...

—ポストケインズ派経済学の補助的特徴—

1. 価格伸縮性がもつ不安定化効果
2. 貨幣的生産経済
3. 根源的な不確実性
4. 適切なミクロ経済学
5. 理論化に対する多元的なアプローチ

→1, 2, 4については後に説明. 今回は3と5について説明.

根源的な不確実性

事象の起きる確率, あるいは予見可能な結果を計算することはできない.

→「精密に誤るより大まかに正しいほうがよい」P. デヴィッドソン

理論化に対する多元的なアプローチ

ポストケインズ派には,

ファンダメンタリスト派, スラッファ派, カレツキ派

という3つの潮流がある.

ファンダメンタリスト派

デヴィッドソン, ミンスキーなどアメリカのポストケインズ派.

根源的な不確実性, 貨幣, 流動性選好, 金融不安定性.

スラッファ派

スラッファ, パシネッティ. 多部門生産システム(商品による商品の生産),

技術選択, 資本の測定, 所得分配.

カレツキ派

本講義の中心. ミクロとマクロを首尾一貫して説明.